

相州浦賀表江異國船渡來二付  
諸向御書写并御觸書写  
付異船風聞書入

写本

特別

子12

3643

181

80

75

70

65

60

55

維時嘉永六癸丑歲六月



相列浦賀表江異國船渡來  
諸向街屋書字并御觸書字  
附異船風波書入

故  
梅若誠太郎氏  
昭和四年五月十日  
梅若連氏  
寄贈

亞墨利加人ヨリ差出書翰和解字



清友舎  
所藏

一 浦賀表の湯来し西墨利加船の差出の書翰と和解  
書式丹お遊の付度し儀と國家の大事ニ以て之を  
不審易筋の事と書翰と趣意得るを熟読致し致  
考し是もあつては儀と旨と不審の事  
を不致十分にて多中波の事付度西墨利加船持来し書翰於  
浦賀陸名に儀と全一時に権るにありては右に不致沈致考し  
題して多中波の事

北亞墨利加合衆國ノ伯理璽天德 ニルラトルモ 人書ス

日本國守殿下江呈ス

予今水師提督ニツチウセベリルを以て此書を殿下ニ呈ス此若ハ即  
合衆國ノ海軍第一等ノ將ヨリ今次殿下ニ領地ニ航列セシ隊  
軍艦ニ總督ノ命ニ水師提督ペリリヲ命じて予ノ殿下ニ對シ  
且貴國ニ政廷ニ對シ極ニ懇切ノ情ヲ含ムトモ告明セシメ  
又且今次ペリリヲ日本ニ送ルハ他ノ旨趣有テ唯我合衆國  
日本ハ互ニ親睦シ且交易ヲ爲シ所由モ告知シメ  
欲ハル小島ニ合衆國ニ基律及ヒ諸律ハ固ヨリ各國民

禁戒ト下シ他邦ノ民ノ教法政治ヲ妨グルトモ得ルヲモ  
予情小水師提督ペリリノ命じて予等ニ事致爲禁セシメ  
是貴國ノ忠懇ヲ妨ケシ事致欲シキあり

北亞墨利加合衆國ニ大西洋ニシテ大東洋ノ邊在ル國ナリ  
然中ニ<sup>カルホニア</sup>カリフォルニア及ヒ角里伏重尼亞ノ地ハ正小貴國ト相對シ  
我蒸氣船角里伏重尼亞ヲ發スルハ十八日ヲ経テ貴國ニ遊シ  
得ル我角里伏重尼亞ノ大列ハ毎年凡金ニ約万ドル  
按ルドルラハ和蘭ノニキユルデニ約一四ニ當ると云今キユルデニ銀

此の如きもの——銀子目と金とを以て定算する時ハ二萬五ドルハ  
本邦の一五二五乃至五五五五ある銀若干水銀若干水室名若  
干種及びその他諸種貴重の物件を産出日本も亦豊富肥沃の  
國ゆへに幾多貴重の物品を以て貴國の民人諸般の技藝を長たり  
する志三國の民とて——多交易を行つて之と欲の是を以日本此  
利益となり亦兼る合産金の利益ともをむすべしと欲してあり  
貴國従来の制は支那人和蘭人を除くの外は外金と交易せざる  
事を禁むるの固き也予を知る所也然るに世界中時勢の變

換ふ所の改革の新政行つての時は尙了ハその時少許以て新律  
を定むるを智と稱す也——蓋し國舊制の法律初て世上少  
し——の的ハ今も是を見むハ既し其古あり

以時代不尙きとて亞墨利加列始て之をせし或ハ是を新世界と  
名付改遷巴人は其不恒據とて此の不在てハ亞墨利加ハ人民掃成  
ありて其民生貧陋なりが尙今ハ民民小蓄息——交易亦  
弘暢となす也故に殿下若四律を改革——吾國の交易を允  
準有る不於てハ吾國の利益極々大なる變數あり——然るに

殿下若尔邦の交易を禁絶する古来の法律を令く廢棄  
せらる支款を明かす年或は十年を起して允準しして其利  
害を與へし若果しして其國に利なきも於ては再四律を四復  
しして可く凡合衆國他邦の協約を以て其六年を收年を以  
して約定しして而して其支便直あるを知りしは再告不協  
約を尋ぐしとて其

予更し水師提督の命しして一件の事以殿下告明しむ  
合衆國の船每集角里伏爾尼亞の支那小航なる若果是  
又鯨獵のため合衆國日本國海を出入りしもの少なるは  
而して若颶風の時ハ貴國の凶海を以て破船の事有り  
若果是等の難ふ處に於てハ貴國  
の人と其市に功ふに請ふ所あり  
しして次件を殿下告けしも蓋日本國ニ石炭甚多し其  
食料多事ハ所り當り所なく我軍用たる燕喜船ハ大洋  
を航するに方て石炭を費する事一甚多し而して其の石炭ハ  
亞墨利加に已搬運せんと其れハ其不便知るし一是を以

殿下若尔邦の交易を禁絶する古来の法律を令く廢棄  
する意欲を有する年或二十年を起して允準し以て其利  
害を以て若果し其國に利なきも於ては再四律を四復  
し以て可ん凡合衆國他邦の監約を以て其國を救済する限  
して約定し以て而して其交便直あるを知り時其再禁し監  
約を尋るべきことなり

予更ふ水師提督の命し以て一件の事玆殿下に告明を以てむ  
合衆國の船每隻角里伏爾尼亞の支那小航する者其是を  
又鯨獵のため合衆國日本國海を以て舟ありの由ありし以  
て而して若颶風の時其貴國の近海を以て往て破船に遇事有り  
若其等の難ふ處に在りて其貴國の船に救はれし事  
傳ふと其事有り功ふに請ふ所あり予又水師提督に命し以て  
し以て次件を殿下に告げし事蓋日本國に石炭甚多し其  
食料多事ハ予り當ふ所あり我軍用たる意欲船に大洋  
を航するに方て石炭を費する事甚多し而して其の石炭の  
亞墨利加に在り搬運せんと其れは其不便なり予は其を以



易を禁傷する古来の法律を令く廢棄  
 年或二十年をたてて允準しつて其利  
 しく其國に利なきも於ては再四律を四復  
 國他邦の協約を以て其爲を數年を以  
 して其受使宜あるを知りし再其協  
 命しつて一件の事以殿下告明をむ  
 角里伏爾尼亞の支那小航なる者も是  
 命日本國海爲小由舟の由なるは以  
 的の貴國の凶海を以て往々破船之途事有り  
 此の事ハ貴國の如く其難民を救ひし事  
 此に請ふ所あり 而又水師提督へ此命  
 告げし事も蓋日本國ニ石炭甚多し其  
 當り此の如く我軍用たる蒸氣船ハ大洋  
 炭を貴國に奉り甚多し而して其の石炭ハ  
 運とんと其の不便知るべし是を以

提督し其の物を保護す  
 以て此玉を一艘を送り難民を。

予願ふは我國の燕窩船及その他諸船石炭食料および  
水を得るる爲ふ日本人より其を許さしむ事或は其價  
亦不便紙を以てさるる或は貴國に商人好む所の物件を以て  
るも可也傳ふ殿下貴國の南地に於て一處を擇ひ以て我船の入  
港を許さしむ事或は予願ふ事或は右の故を以て予今  
水師提督ペリル小令に於ての軍艦を以て貴國有名の大府  
江戸小引らむむ和親交易石炭及食料及合衆國難民乃  
按郵ハ昂ち其許あり

予更ふ水師提督ペリル小令に於て殿下諸船の物物故にむ  
願ふらむ事或は容さしむ事或は其物箇とさしむ事或は其  
又或は合衆國中諸船製造爲概を以て予今其物及且予其  
敬愛の激衷を表さしむ事或は其物及且予其  
天殿下と爲ふ祥をも運入とを爾書に呈して爰ふ合衆  
大印章を以て且自名姓を署し時二千八百五十二年第

十月三日

我嘉承元年  
壬子十月二日

予其政務の本所亞墨利加ワシントン府に於てス

伯理爾天德命ヲ受テ外國事務宰相

シルラルト。セルモカシ  
親筆

エドアルト。エヘシツト  
親筆

西墨利加人司差出候書翰和解寫

并書簡御請取之節御渡相成候書取寫



合衆國使節呈書作文直ニ候書取写

亞墨利加大合衆國欽差大臣本國師船天竺唐土日本等海水師  
提督大臣彼理天功書ヲ申述為本欽差役之申付ヲ請諸支取斗波  
一組軍船牽ヒ日本國之境ニ渡来波

大皇帝殿下江書翰ヲ尊上兩國之和睦條約ヲ申述候依リ本國之書  
翰本欽差役ヨリ書翰共ニ書ハ別ニ取英蘭字漢文ニ相認  
入御後候右ニ書ト奉書ト封印ニ大皇帝江御目通り之節ヲ得テ入御  
後可申候且右國主之前ニテ申上候ハ吾國主ヨリ陛下以安心思召之

処ト思意致候故ハ吾國兼テ久備承候者吾國之人民貴國江差  
出候者共或ハ大風ニ逢漂流致貴國之海岸差致ス人民共貴國之  
以役人百姓共我人民ヲ仇敵之如ク取扱ヒ致候テ我國主甚心配ヲ致只今  
ヨリ數年前船三艘名ハ叫嗎喇進喇啣咖噠味ホト呼候人船貴國  
之海邊江漂流致候節彼是内取扱之委細ヲ承知致本欽差役主命  
ヲ請殿下江申述出許容ヲ願ヒ和約内承知之上我國人船貴國之海邊江漂  
流致或ハ暴風ニ吹流ヒ港口江着致候テモ仇敵之如ク内取扱無之様致度且  
亦貴國之人民吾國江漂流致候ハ船中入用之品助力致貴國江返申候

西國歐羅巴之國ニテハ吾國之官民ヲ取扱候ハ總テ人論命蘇之道心得  
候故船九壞水人之死亡ハ相救候莫ニキニ是等モ内監察可下候且我國  
歐羅巴諸國ト慈意盟約之國ニ無之候得共吾國之法度ハ夫々諸役人ニ  
政支ヲ取扱候テ本國人民之教ニ拍リ不申候増テ他國之政ヲ乱シ候儀  
ハ無之候吾國之儀ハ是ヨリ前三百餘年歐羅巴初テ貴國江渡来之由ヨリ  
我國ニ来住土地ヲ開只今ニ及候テ大邦ニ相成日本歐羅巴之間ニ有テ東  
四海ニ連歐羅巴人ハ早ク東方ニ住居シ今度ハ人民著亡月ニ國之西界ニ至リ  
日本相對候故火輪船ニ乘リ泰平海ニ渡リ候得ハ十八日廿日ニ貴國之境ニ

至リ候當時天下統一統一交易之道年々繁昌故貴國ニモ漆ニハ船多相見候  
貴國之役人衆吾國之人民ヲ仇敵之由取扱不相成様ニ國主ヨリ大皇帝江  
兩國之和約ヲ定メ由慈意渡候貴國初テ御法度ヲ行ヒ異國船  
湊口江入候支テ由禁制ニ成候砌ハ知政明成ニ候得共只今ニ相成候テ吾  
國ト兩國近隣ニ相成往來容易之故ニ候得ハ昔ハ今ト時勢同シカラス  
由智政ニテ古倫モ由掟ニ準ズヘカラス儀ニテ本欽差役相考メ陛下ハ定テ  
當時之大概情形ヲ由考察可成候間此理ニ從ヒ實ニ和約ヲ取換候得ハ  
兩國兵端ヲ引起候事無之ト故候依之四艘之小船ヲ率ヒ由附行近海  
渡來渡候和約之趣意由通達申候本國共外ニ數艘大軍船有之由間  
早速渡來可成右着船無之以前陛下由許容テ下候様仕度候若和  
約之儀由承知無御座候ハ來年大軍船取揃早速渡來可成候右容  
大皇帝之由評儀相願申由承知テ下候テ右ニ條約取換候後ハ外大坊  
之用支無之候テ大軍船渡來不渡候且亦吾國主如約規定之書翰  
持込仕候是ハ成カ何レ由圖ヲ請御目通り之節由直ニ入由後ニ可申候特  
テ大皇帝貴重之由尊體由裡行無由座候上故候是等皆由附行ニ至リ可  
申込候

嘉永六歲癸丑六月初六日

亞墨利加人ヨリ差出候書翰也請取写

一國主之書簡及副書共請取候國領江可捧者也此所外國  
ヨリ應説之地ニラス願之支ハ長崎江趣可申立旨幾度諭  
トイ共使命ヲ辱シ一分立度趣存切申度由使節ニ於テハ止  
支ヲ不得ト共我國之法モ亦破リ難ク此度ハ使節之苔事ヲ  
察シ書翰請取トイ共應答之支ハ不及候趣會得致使命  
ヲ全シ速ニ歸帆可有者也

嘉永六癸丑年六月九日



亞墨利加人應接所座之者名前書字



維時嘉永七甲寅歲二月十日荒川欽次郎知行所  
武刻久良彼郡於横濱村應接之砌上陸之要墨利加  
所座之者

ホラハツテ

ペルリ

ホラハツテ

アトタムス

シツセニベシ

フカナシ

ツシテリヤ

ホノフエ

ワシテリヤ

メイストン但醫師

サラトガ

コヤム

セテタイニチ

ホノス

日

ベツテシズノ

レキスニクシ  
ラノフシ

ホウハツチ  
シスニ

サラトガ  
コトルスハラシ

シツセニ  
モレノ

日  
スヘイテシ

サラトガ  
ハルレス

ホウハツチ  
エルシス

ワニテリヤ  
ハノホノ

ホウハツチ  
シノル

レキスニクシ  
子ルツシ  
但醫呼

日  
ヒイノウ

シヨウハツチ  
ロセノル

ワニテリヤ  
シヌスト

シヨウハツチ  
ハウスト

シツセニ  
シヨウシス

ニスト子  
ワイ子

日  
ケリヤム  
但醫呼

セテタイチ  
アノ子ホル

ニスト子  
ツレツヘル

セテタイチ  
フラウ

ニスト子  
アラス

日  
ワイドクイ  
但醫呼

ホウハツチ  
ニキスベウツ  
日

サラトガ  
ウリヤス

ホウハツチ  
ハイ子  
但画工

ホウハツチ  
ウリヤムス  
日本通詞

ホウハツチ  
ホウテメン  
和蘭通詞

メ上官之者三拾五人  
外ニ小者五人

一守官附流卒

廿人

一月津持官旗持者

廿二人

一赤旗持

三人

一赤白布交旗持

三人

一コシニシダント

五人

一ラフシイル

六人

一ニトロス

百九十八人

一ツルダノト

百六拾二人

内

コルホノル  
サノヤント  
十人程

一音楽方二十人一艘

廿八艘

但ナニホノドカシ拾提

越人数四百四拾二人

外ニ船ニ残之者凡二百人程

一本牧之方ヨリ船之名

○ 寺

レキスシタシ

但大炮 五挺

○ 水

蒸氣船

セテタイニナ

但大炮 六挺

○ 三

日明

ホウハツテシ

但大炮 八挺

二月十日朝四時ヨリ應接始リ夕七時迄相済

己上

○ 八	○ 七	○ 六	○ 五	○ 四
日	日	日	日	蒸氣船
シヨウ分テシ	サラトガ	ワシテリヤ	シツセシベン	ゴスト子シ
但大炮 六挺	但大炮 二十挺	但大炮 二十挺	但大炮 八挺	但大炮 七二挺

亞墨利加人引獻上并異人江被下之品寫



亞墨利加國王ヨリ獻貢之品

一 雞形  
亞系車

去々教

一 五レキト九レテカラウ

去々ワ

但雷電入系テ夏ヲ告ル然歟

一 洞製之船 但書藉添

去々艘

一 月形 但本他リ

去々艘

一 アメリカ産物類

一 子ウヨルク<sup>名地</sup>物産記

一 合瓦玉図

一 海濱之図

一 天料方銅量具

一 時斗

一 耕植之具

一 羅 紗

一 天 矜 絨

一 臺附遠眼鏡

一 マヌリカ産酒

一 瑞 酒

去ッ

去切

去反

去ッ

去指

去指

去武

去ッ



一 食用之品

五箱

一 茶

三箱

一 書籍

拾二冊

一 火銃

五ツ

一 道中用袋

五ツ

一 襪履

五ツ

一 旗炮

三挺

一 馬上刀

十二振

一 大砲直刀

六振

一 六挺仕掛短筒

五挺

一 短筒

五挺

一 階子

五挺

一種物

古箱

一石版之類

御書抄

一後屋之類

一白くらの類

一花綾織物

右よりアメリカ傳り多き者ありし中舟形通るる細布也

亞墨利加人江被下之品

アメリカ國王の

一料紙硯箱

箱蓋は硯箱板竹也

古通

一札

黒紙に硯箱板竹也

古所

一書棚

硯箱板竹也古所

古所

一廣蓋

日花の丸

古紐

一白結

黒紙に硯箱板竹也

古所

一花括

古所

硯箱板竹也

古所

一 玉物

年乃

金銀世乞翁

三寸

一 卯白羽二重

古丈

一 紋隔細

古丈

一 板大編細

古丈

供節江

一 料紙破箱

浙獅子道學為信

古丈

一 卯白羽二重

古丈

一 紋編細

二足

一 板大編細

三足

船將此九人の

二

一 卯白羽二重

三寸

一 板大編細

二寸

通每友江

一 板大編細

三寸

燕士友中二人江

一 吸拍梳

為信

十寸

西曆一千九百零九年

一 朱

五年入 或方儀

一 鷄

二 方羽

本週在毛里求斯海峽航行已合宜於海

二月 日

西曆一千九百零九年

一 那月鴉

六年

己上

世母久連武士



在母久連武志

柳屋の京師の陳動等とも久しく長門事件の咽をとり  
たぶれをあげてその意をたすゝる遠くをあたけのまゝ家をさす  
芝居のまなみりて播磨にもお見えなりかうおのが仇殺成敗の  
辛苦も思はぬやうに目くらまはせしむるもついでに王政復古  
も天下の治安よ正しくあるにしろつゝそのやむを得ずや神もいと  
あはれなる御事の御書を解しておのれをわが河曲の小人  
あはれにせむのいふにわが世首があはれなるやまゝあつちま  
やの屋のあが持てをれあがむ四層の軒のあはれやの少人よこの目  
かきつらり〜とつて〜とつて〜とつて〜とつて〜とつて〜とつて〜とつて  
付吾親の行を〜とつて〜とつて〜とつて〜とつて〜とつて〜とつて

うして強どくといふも天下の大事ありて解さぬと云ふ  
肉がよもしくは國もあつての事でも喰つて腹でもあきやうといつても  
よからふおらが親を侍ふがよき事にて自分の必事をあきらめ  
あまて所々の御前へまゐるもよき事にてあまらふが眞云ふ  
視神々對して何とも云はしき事なり或る余年の社稷の大業  
人より滿して悔はさぬ事なり老みむがよろうよ一朝一夕つ  
天下で申くならせむ七の時の後たのふ人候數年の辛苦を臣  
下の忠候と云ふくはさぬ事なりと門徒の事礼大高城内を  
稱もよばや味もが亦く一騎の脱もや田中源太らといふ  
まゝとの持戦願はしき思ひは源が信はる小掛らなり關が京  
あり大坂の陣も存よふの付さむつのも事礼其ハあつて雲の上

うら悲の付らしては水ものあひらへ寒風肌をこして  
いづき魂の泣きもあぢ夜をこがさず七拾有金と懸ひなるを肉  
をも喰らひ難儀なる事なりを世に山野におき伏し  
まはるは日秋らんあはれ目をあさぬと天下をいふは  
人いふも難事をはせし進むと云ふは事なり  
るもあつては好械四藩のこゑなる事なり腕をもちつて  
氣を注ぐとせりやうや馬を馳せぬとての  
善代忠顧の御守と云ふは  
けをれがわは先祖へを祈るも  
あぶるのばら梅枝御免を祈るも  
うらひてはうらやうなうらやうの





此氏威ら感んつ々よ肝賦後群きさあ〜百石石より後合  
成どく草葉のうげりて神祖の尋魂喜びもあつらふ事少ら  
必定れくは上志つろき厚くも圓懐の懐ぬけあきけりあごよ  
いさるも肥膏もたの君より真の兄弟まよはごや奸徒よ一  
味ら世間の風俗不忠不孝のお人で有どく家来不伏でお直  
ぐお事ぬり終る一國二重のあ〜ある國の政事ぐお事ぬりゆと  
ハ御もあきまゝ不伏の家来ら殊伐志るさん夫が由來秘を  
生てかひあり一切抜きあるさん何んすりあきまゝてはつぎけあ  
阿波の世帯も矢ッ法たちごよ古作の奸徒よぬら〜ふ〜ん〜  
厚つ〜あやまる奴回極運入るハ何事いさのい家ら立流か  
まぬき尻をもきようつておきと厚くもせい麻おけあさるま

第一事何の時辰もぬんで先掛ケる名あつたをきし母事一や  
ららきて下ふ福井の防をん何〜て飛や志るお事ら田  
安の血筋のお人で一場政事ととつらるい家らや々の膝ご  
お事の育る林諸家の園方園汗住指とな〜〜事ゆへ  
こんも大事らお事ら事だよい家ら立流ない家門何  
お事ら〜らあるよい向ふ許巻七道具ととつらと皆負て  
腕とおつて懐費実執去とやま〜〜て直まあ〜秘  
夫が由來むら矢ッ法腰ぬけを〜〜な〜とい首があ〜あ  
て下の人氏おどつて要いど肥膏のい後指い首と麻ある  
り天下累印危う〜あ〜〜と出うけて強勁後をて下さん  
今まで〜〜い義の願〜あ〜とあ〜の泡だよ

百日後法目ふいのきうづ、金澤よわらぬ、文氏の内人、何  
分、和やまで有ぞ、肥後の七之を是も日、秋か、い事、ごう、地術  
軍、あね志、の、肝、ら、い、の、大、名、と、度、の、争、乱、能、を、て、中、し、き  
黒田の、とん、ち、き、が、づ、く、ち、あ、ひ、ご、早、く、出、あ、さ、い、上、拾、成、力  
の、了、録、あ、ご、が、り、安、用、一、て、指、る、可、ぞ、や、有、ま、あ、ま、ご、く、な、あ、と、  
腰、ぬ、け、仲、間、の、い、ま、う、く、や、る、あ、の、長、辨、強、清、考、あ、ま、な、を、い、薩  
神、も、清、を、と、天、下、の、諸、人、の、笑、ら、う、と、も、あ、ご、ご、と、平、河、姫、始、の、夜  
な、ず、世、帝、を、又、く、あ、う、あ、と、い、ち、や、舟、を、あ、ま、の、好、と、三、流、を、い、家、の、い、高、代  
中、玉、山、陽、押、入、の、大、名、服、わ、く、齋、つ、く、後、く、ら、ち、あ、の、城、地、按、察、  
大、事、の、可、ぞ、國、の、あ、く、い、國、々、と、ご、ろ、り、月、を、ら、つ、の、あ、ま、い、ま、い、あ、  
い、る、と、公、儀、に、格、あ、て、ま、し、ん、亦、で、切、後、一、あ、ご、よ、の、ろ、い、小、倉、の、

陣、の、不、便、な、者、だ、よ、中、玉、平、定、志、つ、く、く、何、と、り、か、と、り、い、布、衣、と  
せ、袖、が、成、ま、の、実、に、見、難、一、何、く、も、氣、を、毒、杉、山、懐、貴、感、心  
感、一、早、く、加、勢、と、や、ご、よ、の、ろ、い、福、山、何、と、る、洛、酒、と、喰、そ、  
解、て、い、る、な、ん、地、術、軍、と、く、先、の、い、と、勅、を、ろ、井、伊、や、る、田、ら  
少、し、も、も、う、と、い、ま、ご、く、地、術、同、ら、ご、我、地、も、餘、ん、で、ま、葉、も、陸、で、い、  
困、つ、い、お、ご、よ、先、祖、の、武、切、が、其、修、せ、つ、あ、ら、う、よ、く、も、あ、ら、あ、が、精  
た、刀、也、危、く、ら、斗、り、ご、や、叶、ら、ぬ、世、の、中、一、主、家、の、大、事、何、と、思、ふ、ぞ  
と、強、も、強、く、る、腰、ぬ、け、ぬ、ぬ、け、い、あ、つ、も、矢、ッ、法、を、と、ま、な、と、死、だ、が  
よ、う、ろ、い、高、堂、ぢ、を、ん、早、く、出、い、り、慶、長、以、ま、ぞ、あ、ろ、の、小、録  
あ、家、の、使、へ、く、二、拾、金、万、ご、國、主、と、い、く、も、い、高、代、は、松、國、が  
是、名、よ、い、く、ま、い、を、葉、ふ、斗、ら、ご、の、ふ、で、も、有、ま、い、お、い、と、あ、ま、い、

関西諸藩の鑓の頭が安らぎあきこころ非人の頭おとつて  
なす株まぶつてまがもたる根あやまらばよきあつてせうけろ  
獲波のてる松郡山のおもへこつても矢法非人の大名持を  
あやめ養平は世ふ拾万石余の禄としさばり家来父  
武のまほしあひで吞食牙ぐせの中送るは出も同家ねむ  
ぶうかごごまつく腐るくままつて瘡治ぐやまあるひるを  
しぬえ仲方の頭ごやんあんどや勝もやまの縄と使りの首でも  
くつて死ぶごよあろよ上敷をまおあき感心普代恩顧の人  
とい違つて大きなひるをあはれくひん志や先年家来のた義  
々中へ諸人よるぬあでぶやうご仇竹出ぬおあも矢どかり  
さうとあはれくひん仲方の人あう今度の大変恨とさうくを

万事とあるあうらう節をそとせし酒井た海しと度の初命  
自子うまぬが威後まはやく思願の腐らまきふはよあやま  
ど怪費ぬぬきく械のまあう喰いあやあぬで尾身あ  
太市々大きなあう株 神祖のひ集三家の頭とさうくを  
い者が先年と集は脇ぬけ仲らうあはれくひん志や先年家来のた義  
のまらなうぼくはのらあうや三夏のお山の瘡毒身のくあ  
病やともなへともかへともあうよあき家来のあつたう病がら  
えあまらう一丁志やあまらうまらうきくキャツくえつてはあが  
あはれくひんまぶつてまがもたる根あやまらばよきあつてせうけろ  
獲波のてる松郡山のおもへこつても矢法非人の大名持を  
あやめ養平は世ふ拾万石余の禄としさばり家来父  
武のまほしあひで吞食牙ぐせの中送るは出も同家ねむ  
ぶうかごごまつく腐るくままつて瘡治ぐやまあるひるを  
しぬえ仲方の頭ごやんあんどや勝もやまの縄と使りの首でも  
くつて死ぶごよあろよ上敷をまおあき感心普代恩顧の人  
とい違つて大きなひるをあはれくひん志や先年家来のた義  
々中へ諸人よるぬあでぶやうご仇竹出ぬおあも矢どかり  
さうとあはれくひん仲方の人あう今度の大変恨とさうくを

西遊帯あさくげて西遊ハ志あされ西家の出危には時なるぞ  
中々所ら一國ニ寄つて兵隊擧ぐ天下の正義と云ふて飛ぶれ  
ぬ戸の志三國にわけよ副將軍とも云ひしる西遊が四もよ  
ふきておまると雖も招小本時節ぶこそを長公十百斗りの宿も  
ふて引返れぬおあおるふ丹羽や立花何ておあおるぞ  
只つらゆりてや後も々立たぬ北郷や金澤のしゆの志さぶ  
とんよと志あふも夫と相違京都やお江戸ようかゞ所あふふ  
閑老參政その他の役人を別附多う固備給易も時あふふ  
歌聲はまき指の上仗のまはさん回舎侍はめ々まてへちんぶ  
んわんくおへんぞ茶がらうく先年長何志あめ終智九郎大名指揮  
するふんぞ出らぬちんぞむら村よるもまてと知も志あふうて

うなるなうてお麻が早うて長何ふんぞく欠落なるぞとく  
ふあまもまじ江南北見のまらうとくおかまとも替つてあふ  
舟度屋でもうむり天下の人民おぞうと笑ふやたの  
志歸忠勇盡像評しと長巡見なせし皆是て下の英傑  
あふぬ心誠徒面を射と事ら申あつとも動かぬ大膽強勇こ  
へんや天下のね師と云われぬ夫も何ぞや賊の公語のゆえ  
る見あふてぬおととらへてのおまて欠落馬麻といへうも臆  
病といへうもやあふとめつらかつものよなるあわの招え信た  
かんとあふと松あき摺小本野節ぶ首もくくつて配あがよか  
よかろふ困つて何知も人あふれぬ徳屋さん下から怪すまふ  
圖書さん濃地山原赤川傍はまをそへも志あふ者生の生碎

漢語文りの云々と用いた書母とバよりとらんは後者  
笑ふぞ拙も向や詩化文章山社まても事勢策あんぞとむ  
やま厚かーいつと天下の議論と述ても社程と助る知悉  
がなけしむる所も儒者あと孔明云とや春の國語の通鑑  
綱目史記や漢書や三明史は百度見るとして生を付くも  
る所らむる後地かつごんーロカーんつごやーごら  
武彦の中流兵起カる第一時とあるー其教が以の終る  
留るかん久時言るで天下の助る事ありーナボレラデーもワニト  
ニごもてとと終る人と控別中と及ぶ修業とをなせる指業  
兵六腰ぬけ仲るはよぼくも教るる海軍も習書があきれる  
效軍也習ある地帯も二舟の事ある一層とでも四くか働きや

有まのまある漢とん如の川城先をこごる名香橋事や  
出来ぬるまよまのいごつとて兵とや歩兵と四眼倫はあ  
せらるるかかの兵部若くも各病あんどと越過ぬら  
うー本がのあはれいそとあるは兵も出来ぬー金と有るも  
いんがなあれが軍とあるもの如斯の小人集り政事とあるゆ  
災害とて人心伏せぬとていするもの々々の跨動天下の果印  
夫ら俄とややと跨のどとと教が並とては筋が廻ると兵とた  
ひつと小隊前もあつと蛇も出来ぬ歩兵と併しちりて  
出城と跨ごる所といふあうけといふうぬつ登る石の  
はつ登るぼんのりららと地帯と目鼻があつてもぬー穴日根  
てこのおとらあいつの事だが聞くと戸さぬ春平の生をて

み十面うあで何ものちあひで毒のうつとをぬかしてつら  
一生ふそので生解ぐらうでいきり志んあう時あきれるはよ  
見なせん中国の海激浪をなぎるに天下の騷動お江戸の瓦  
其時どしとるがうへ落しきう血屋ととも倒すやう  
あつていふことがしう目鼻でよあれを流してつとつ二日  
の葛蒲が十日の葉あよ海の怒りて治まやにかひ普代恩顧  
の小深大名矢は活やうあよ是を争は天下の米倉あつて神も  
たうあひ肝らあのと下の松老あも事とて神の困るや  
神社に舞のそまき大業絨後の蹄のわゆる歎息料も忘れぬ  
徳中いあ入多分の中あひとややうらら忠義なあ人が有る  
あぶよ三子とてととむとらり腹痛のやつら後ああなる

かゝる危急の甚場も條んで矢は活麻おけてあなるをせよあ  
いぎ小どと云で活あきまはまつて口がきあひ主あが滅  
きてせが梅縁あゝ軍まが保つあたういせんあつらはとと  
ぬも神があまへにッかゝかうはあがよかうなる程やぬぬけ  
あも真結飛隊業人飛も方つやうあう松野隊も困つ  
あもは松割羽羽後あゝあまの地ものはさんあゝあ時を  
股立あも上ノ腕とあつてどしとあをうあも矢は活門のやせ  
あはる斗うでぬのうまもんあもり職強とよとてくんあ  
はる神威であふあうあつあ人の口まの海があああ  
あはるああああああああああああああああああああ  
あはるあああああああああああああああああああああ

予でなながも獨りて極げけ馬折付死にそある遊者  
ある人かしくも有るく遊も此中かある母本づくも清事業の  
大道清秋まばるもせくあはれ其限るて下の諸本々の時  
と何と思ふて同奉て東於へ結よせ魚計とやうかせる余身  
柔あがう踏つては固つと頼ぶの時も今もどごつめく描  
獨ぬけ後がわおまてと流産のひくく諸本四家入を信を  
多う唐もあはるあう名匠とあくとも世活以費で何とか成  
だらうて及もそ外極が皆々帝府とあなどうツルも後う  
者らあはるぬんごもあげぬつきとなくも書の人且お  
いども此がやれやせくわける申る小者の考つていりる川  
思案らたまのほだごそと社もあやう一話がわくも也出は松

まづひあはるく残るげ描つてあま橋うう予でもあげるか豆  
磨であはるまもあまきううて存んごうよかり大園見え茶  
だのまじりてあかせあとのやけくうえん後ぬけ四が  
おまあひは諸本川連系於くおまろ路が組るものらほん夫が  
也まのぶつたり極ぬけぬ林仲るるまま書ものへくく讀まるの  
あはるの内事とあはる事ものま中といふものも法府ぬ  
あはるいごう有度は漢字斗まやけのぬ存の中はぬくおま  
かんごあはる平島丹砂石川系極は渡まひやまをあんやう書  
法同極論もあはるの小秋等られおまろくまもあはるた  
あはる大名らたまあはる人かあはる世の中おまもあはる都た  
おまらぬんごまらうて下口湯でも春ぬ







○ 徳の末のかきあひのつらさ

うぢよお人の物ごとくえもせは

○ 都の門とあつたれお花の末

岸土をよきし道はやくい

○ 大谷丁の赤名の酒

京へはよふのは戸へはかふ

○ 公の極寺へまひまを苦の板

あが坊極と人ハいふな

○ きん公がお蔭とお萩喰

大原をありあやうとぞう

○ 錦織のおろし海をん有柄

柄系あまきまをきかひ

○ 錦ぎれと京うらほ戸へ

かつて居るころまけあ

○ ちの市のゆふゆふ

柳をうらら公家のいか

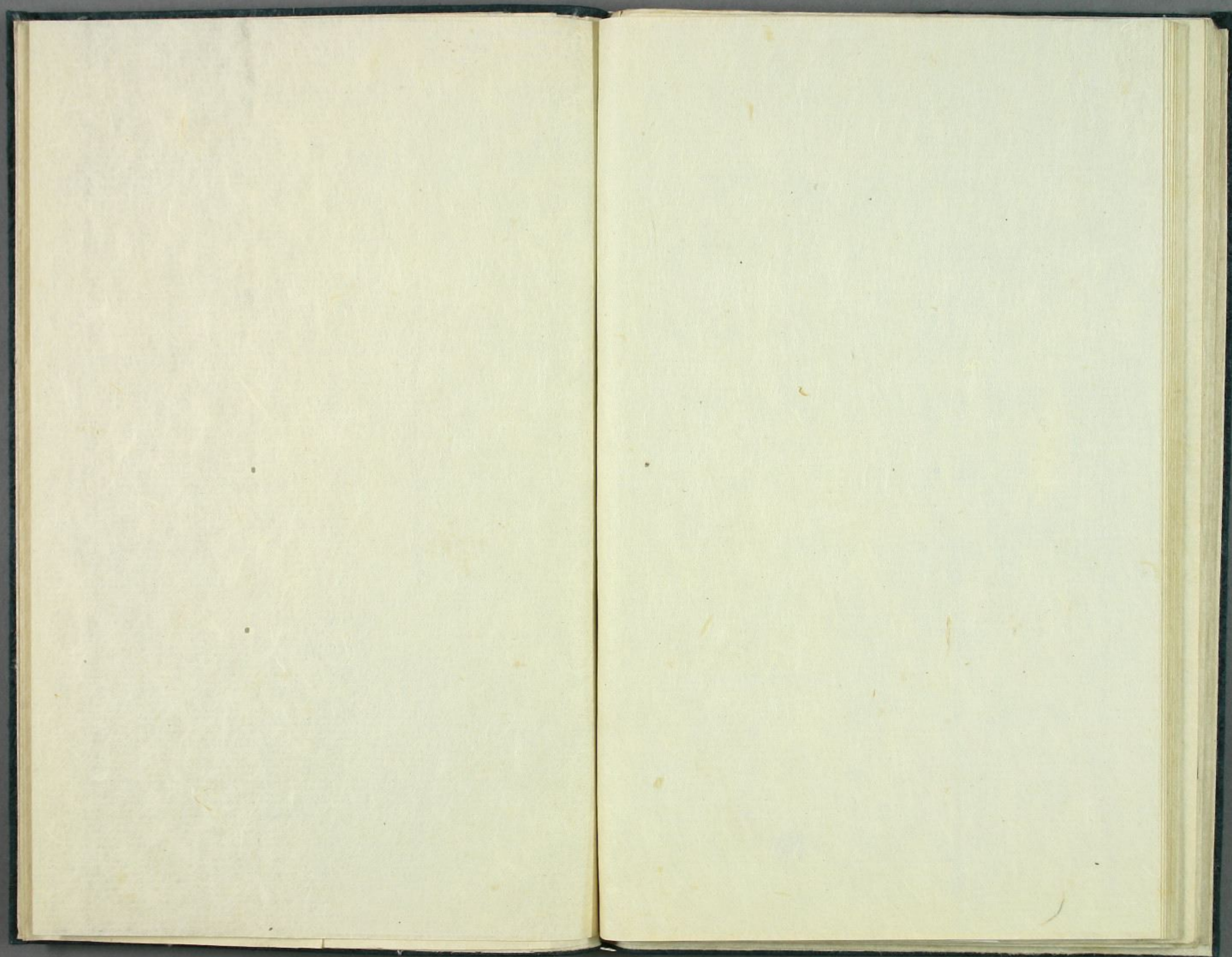
○ てふ成り風のゆふ

杉あけは勢ひはあ

○ 泥のぼふ流つあ

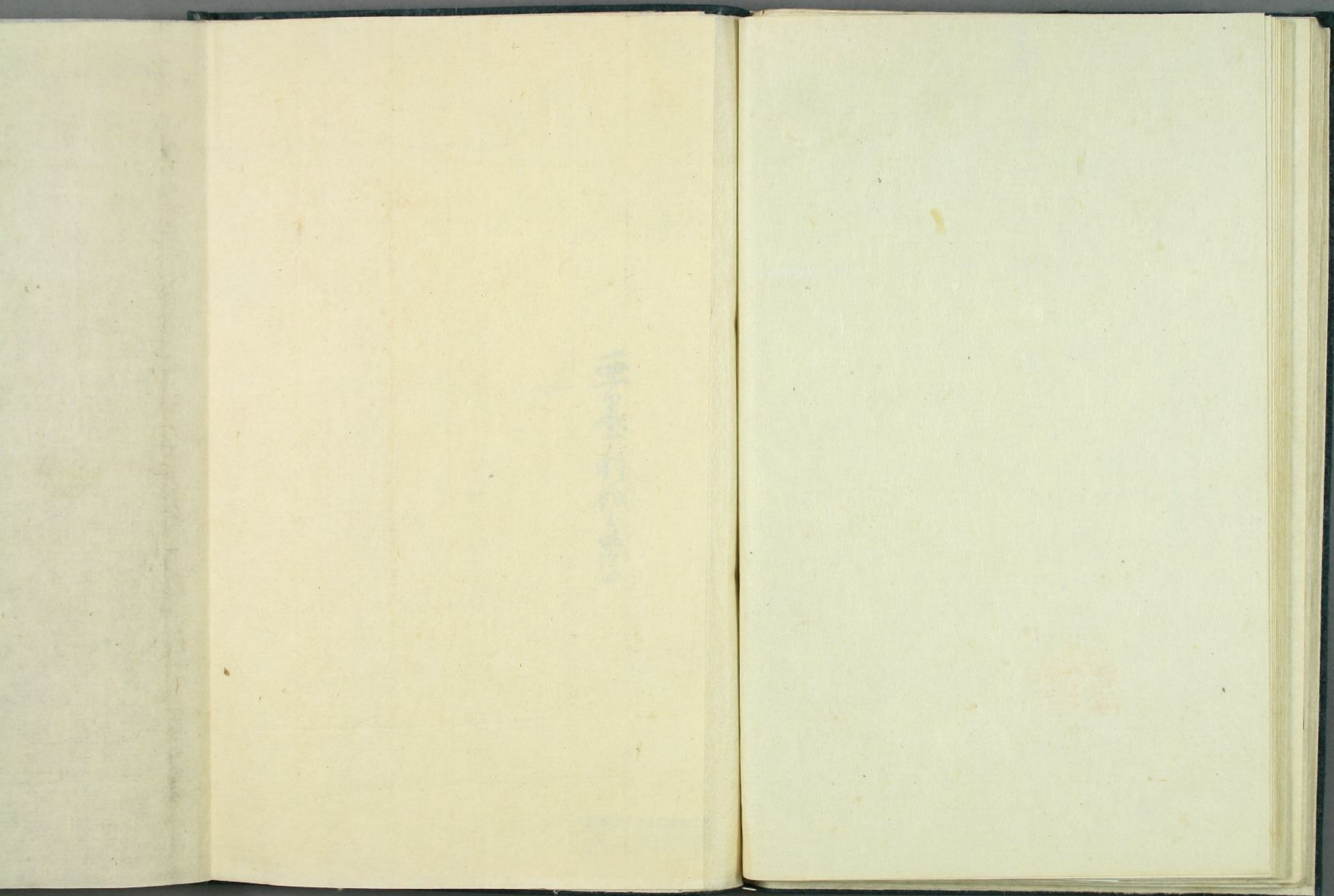
恐深百姓子養名小着總  
官度命貫町大育持名筒  
平軍神辛平人步栞士武  
恭世欲恭繼兵武武蜜道  
御來世行荒漸東道忘繼  
胤御以市異人豕驕學世  
握嫁中田異<sup>終</sup>圈長喰無常  
下<sup>驕</sup>取<sup>欺</sup>櫻而<sup>始</sup>三而隱<sup>陸</sup>  
京天被下大死產河我寺  
都請亡酒降討病儘百御  
位被好坂子時漸<sup>搦</sup>東姓  
官妾削生太<sup>治</sup>百來出<sup>成</sup>  
持軍畜官豕忘<sup>五</sup>拂姓上<sup>六</sup>殿  
事如將市位都恩<sup>八</sup>舊<sup>七</sup>泣<sup>七</sup>掣

此暴文ハ官軍方ノ奸作ト見ヘタリ



嘉永六年二月八日於相列栗波  
よりカ人ヨリ書納  
以傳取場刊畧圖

英  
蒸氣船畧繪圖



嘉永三年六月八日於相列栗波  
より力人ヨリ書納  
以傳取場訓畧圖

英  
蒸氣船畧繪圖

要聖利加子字

在... 聖利加子字... 聖利加子字... 聖利加子字...

7



II A G A R

要聖利加の字

重刊列如子字

AR

AG

II

^ ^

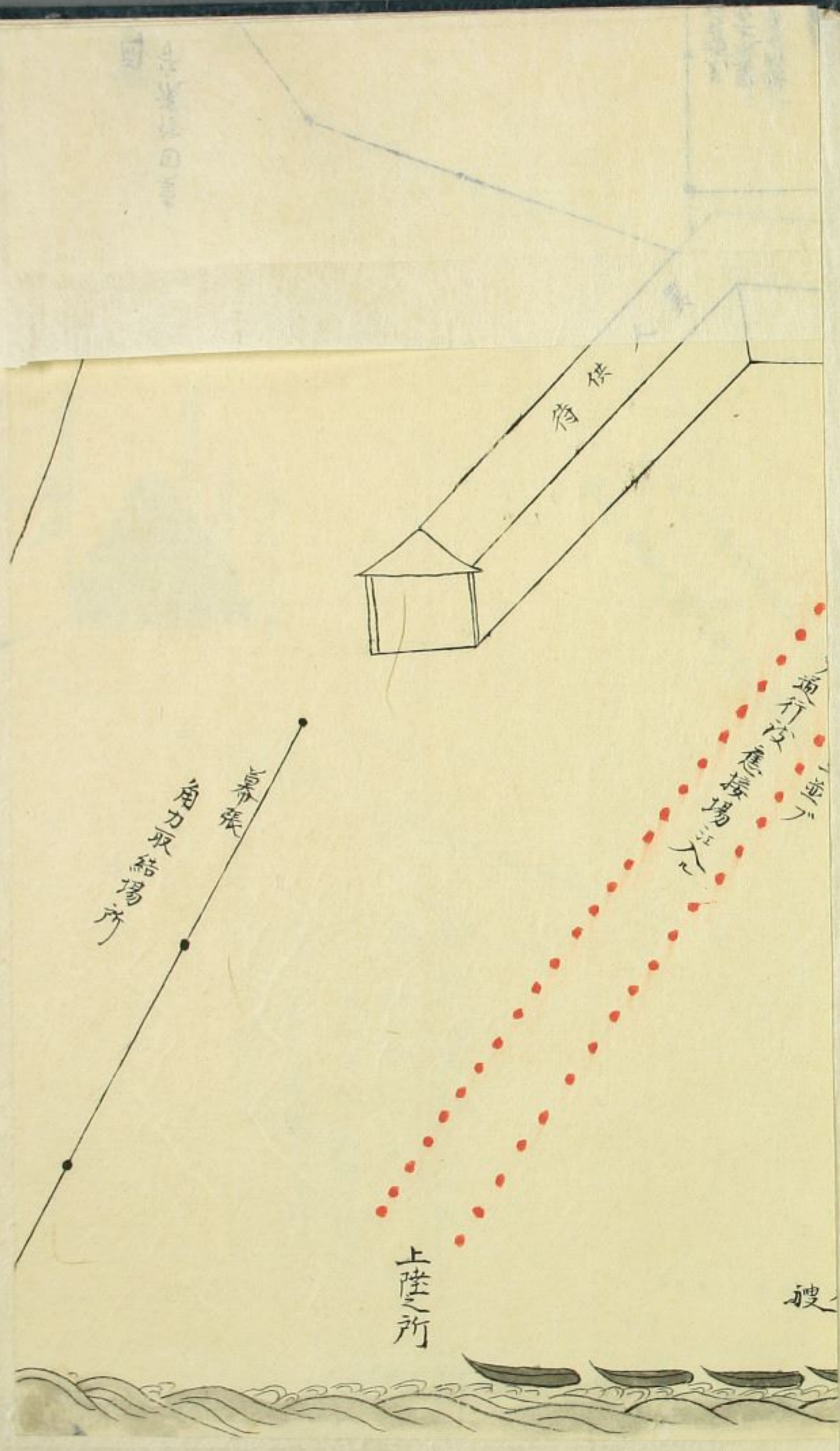
F

W

h II

W

嘉永七寅年二月廿五日列本牧  
是入舟徑上座殿於取堂一完角  
右文字自是書付至船中由

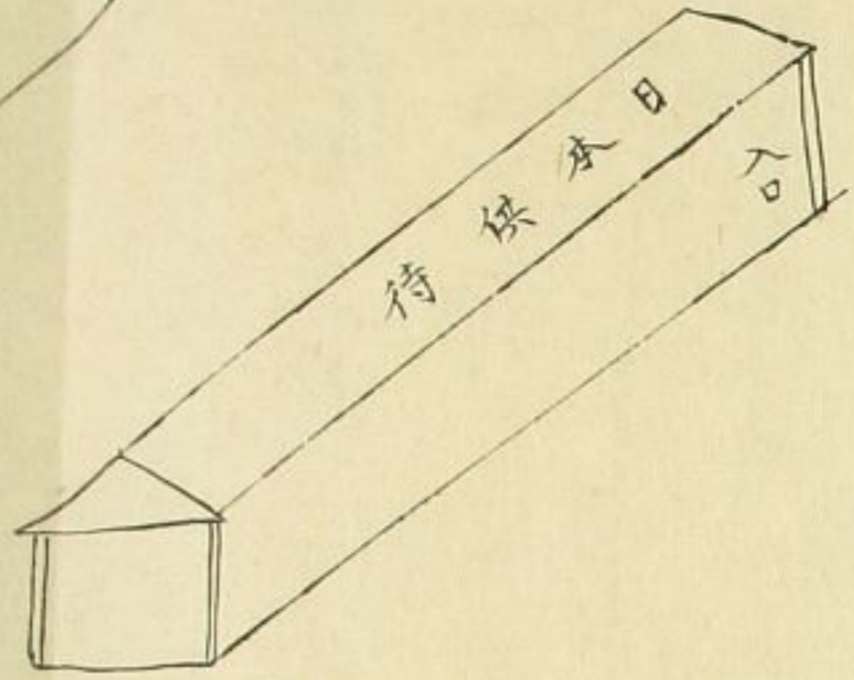
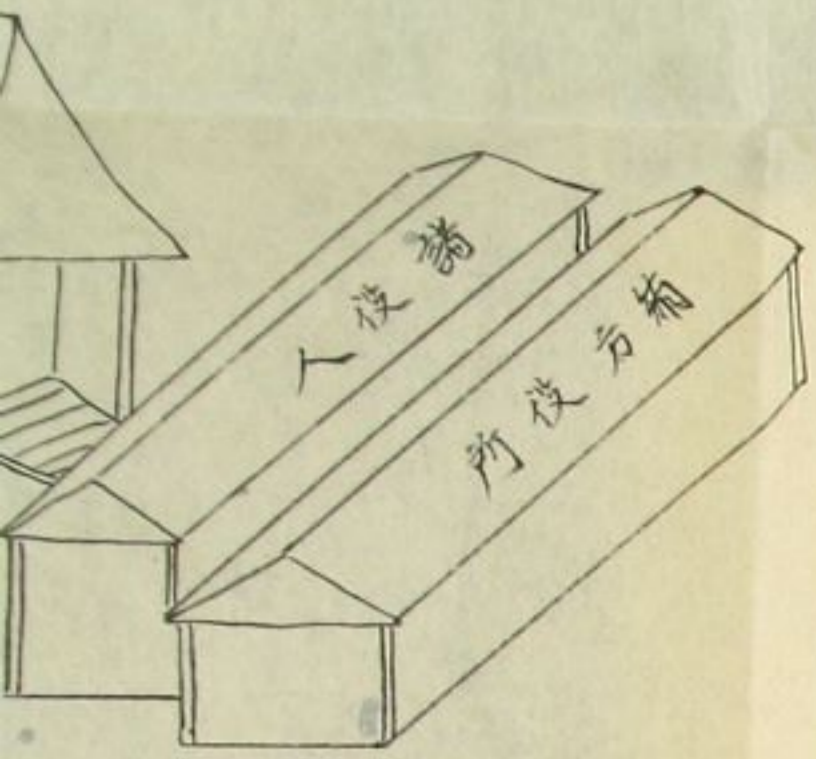


ACIANK

18/000 名 管 20/000

小笠原

固人数



幕張



嘉永七甲寅歲二月十日  
荒川欽波布知行所  
氏刻久良彼邦於横濱村  
西墨利架卜應接之場所  
并異人固之圖

Handwritten text on the right page, including a large, faint mirrored character 'A' and vertical text.

此廻り小笠原

固人数

幕張

場接應

土俵

此所より角力有之  
異人土官之者斗  
見物は作有

貞田信濃守  
固人数

待候者日  
下

人役  
所役右衛門

待候人  
下

幕張  
四斗入米  
廿百依  
異人江下之米

此所より角力有之  
異人土官之者斗  
見物は作有

幕張  
角力取結場所

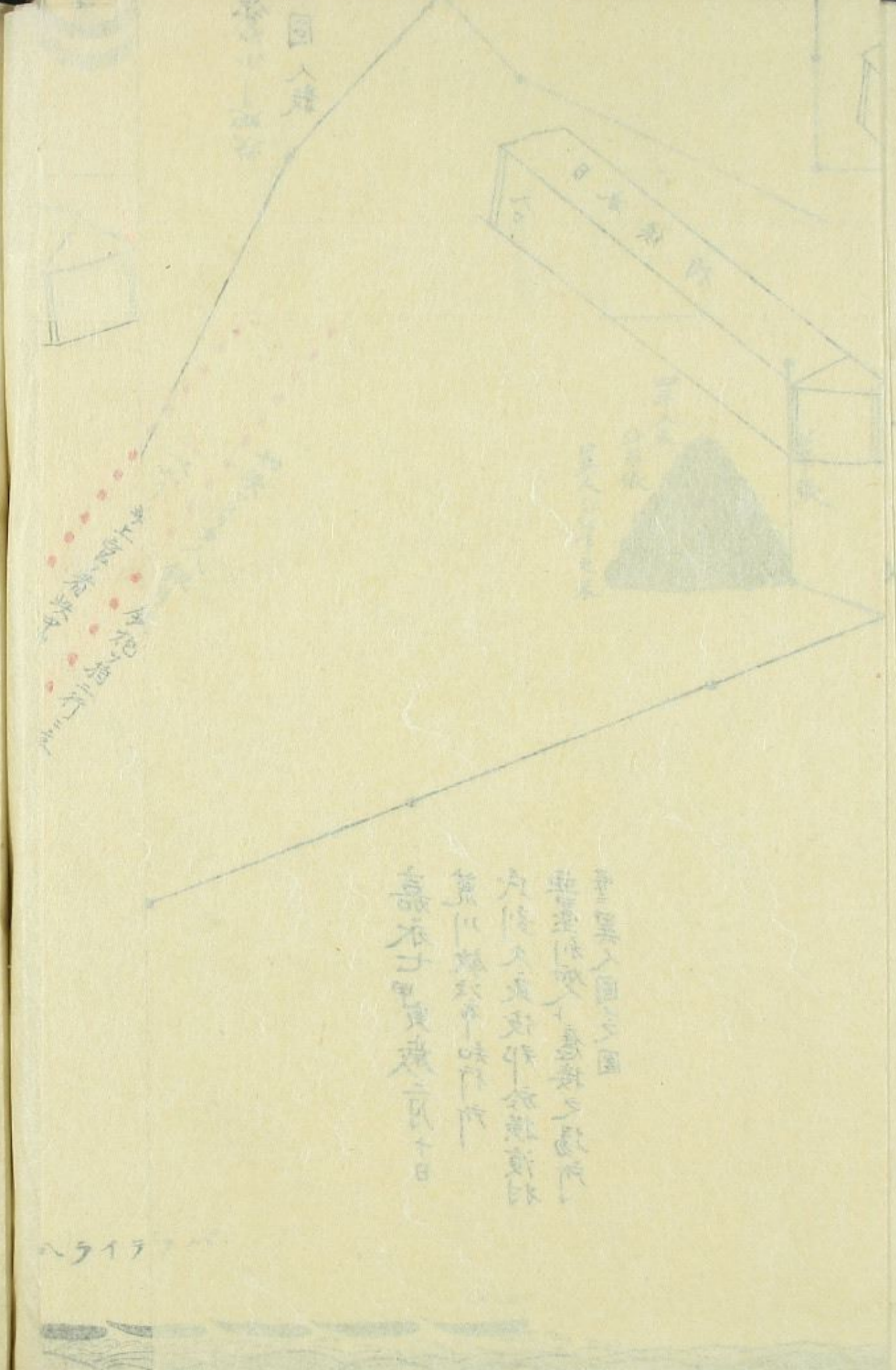
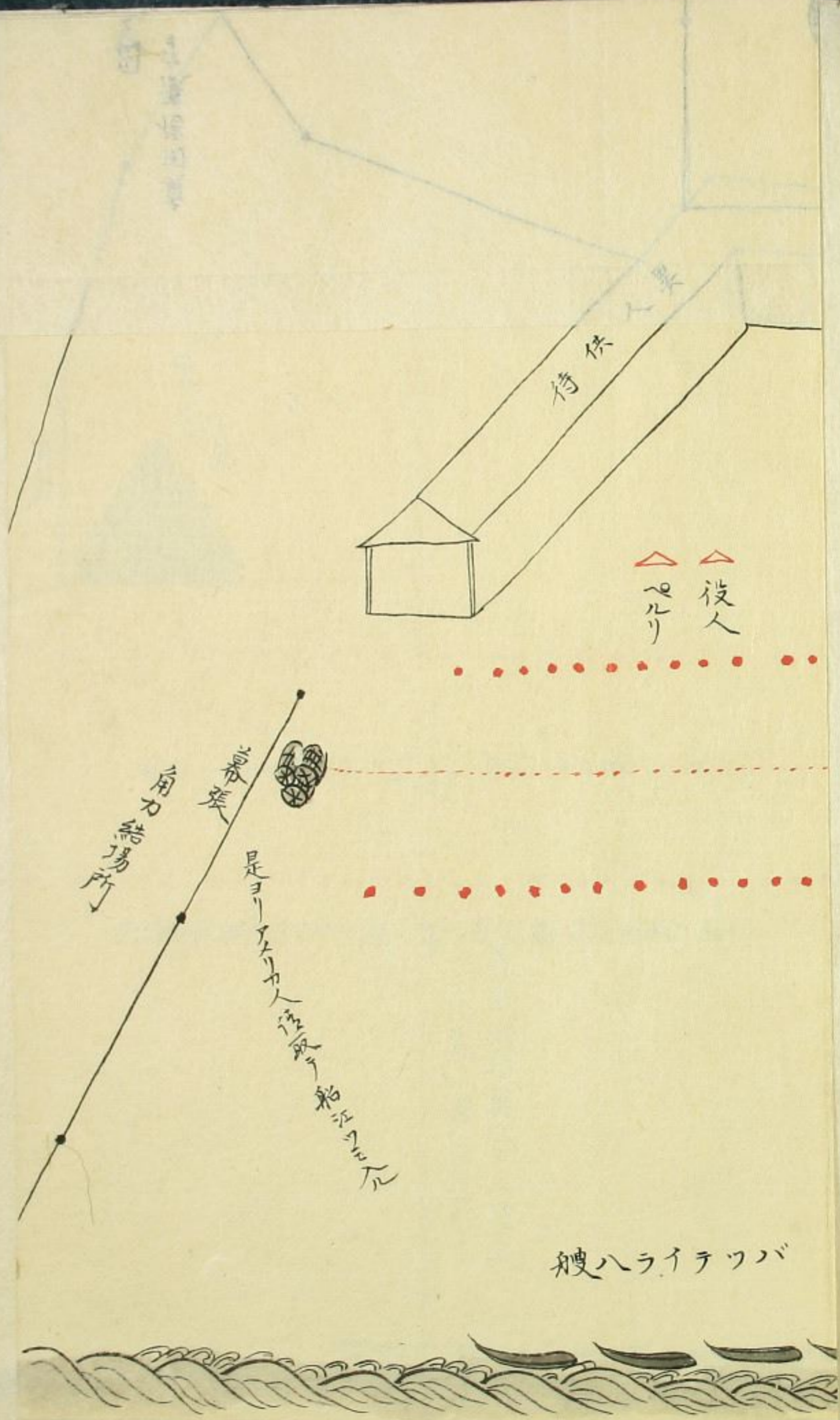
嘉永七甲寅歲二月十日  
荒川欽波市知行所  
氏到久良波郡於横濱村  
亞墨利知上應接之場所  
并異人固之圖

上陸之所

彼ハライラフバ



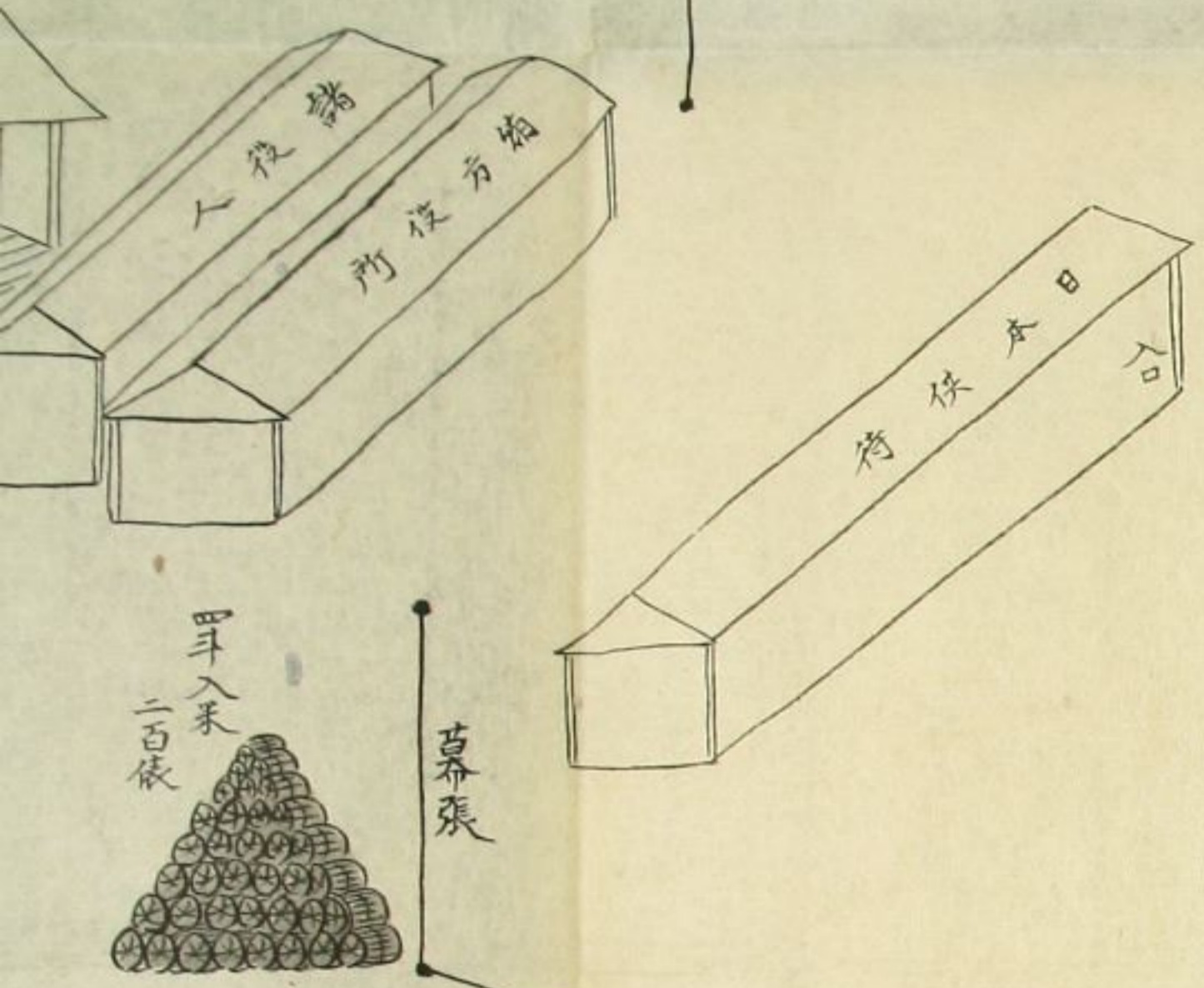
60  
65  
70  
75  
80  
85  
90



重入園之圖  
 此圖係取イテ書キテ置  
 内陸ノ東野村ノ船所  
 兼ハ船場所ノ味ナリ  
 嘉永二ノ甲寅歲二月十日

笠原

固人数

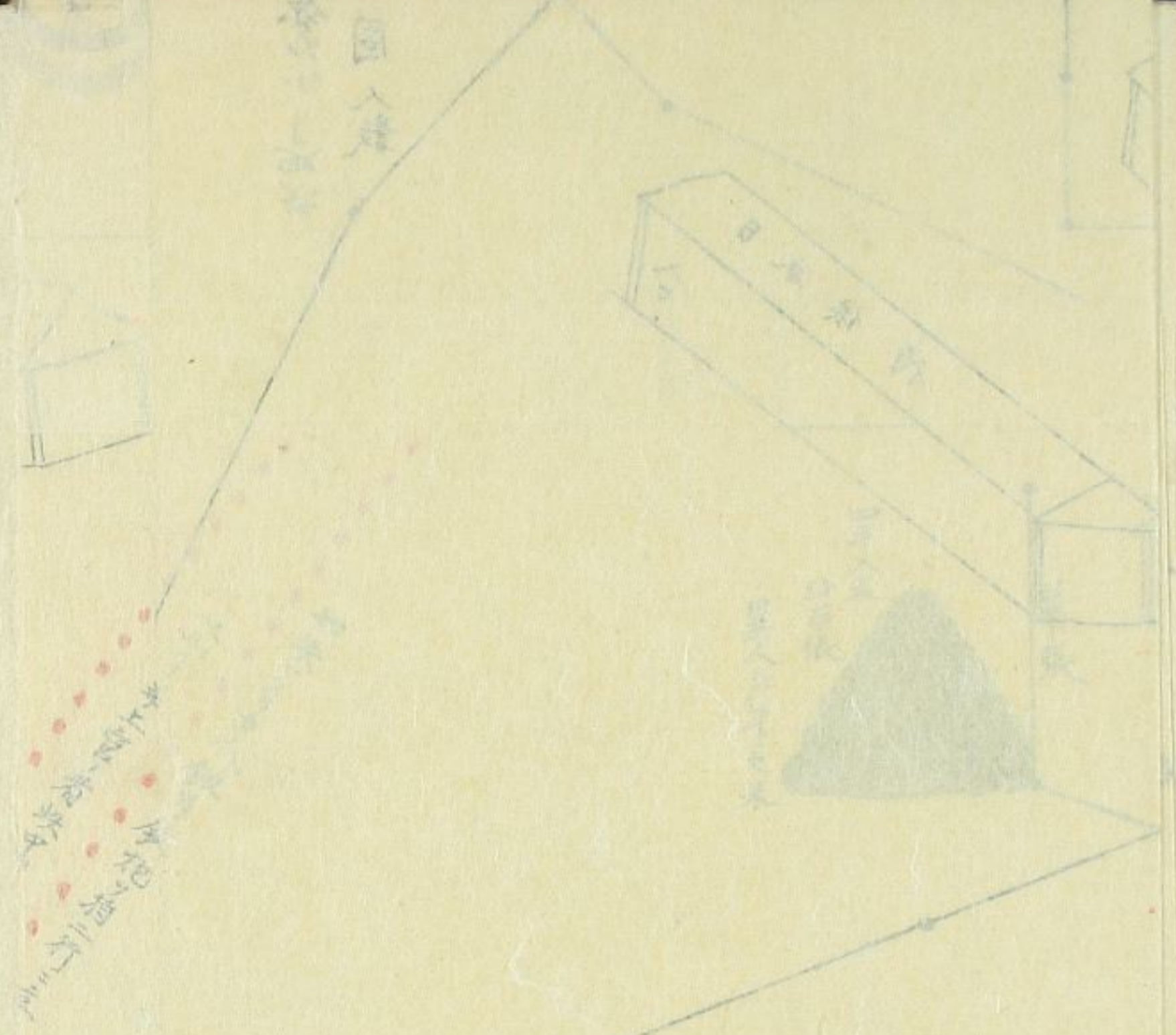


此サノ細口段

米三石俵異ノ江

意接相所異人江米三石俵  
此下候節如圖之ニ行ニ圖之

固人数



手裏入固ノ圖  
此圖係何人ノ意對ノ圖所  
内陸ノ或所作ノ意對所  
兼似繪於平味所  
嘉永三ノ甲寅歲二月十日

ハライ

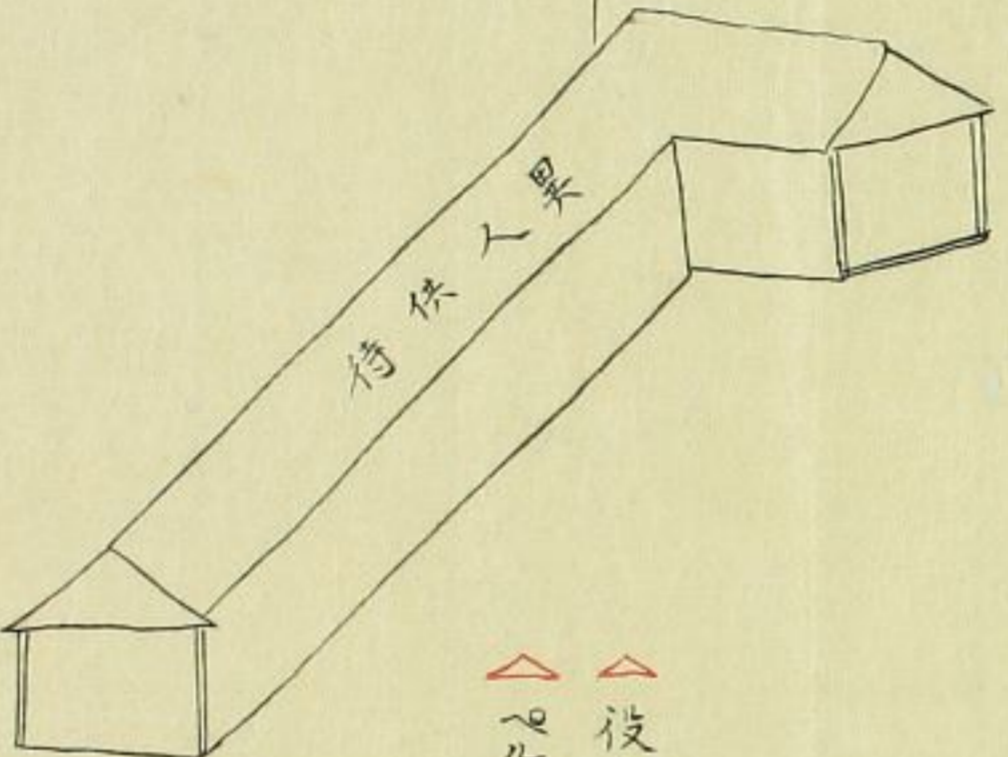
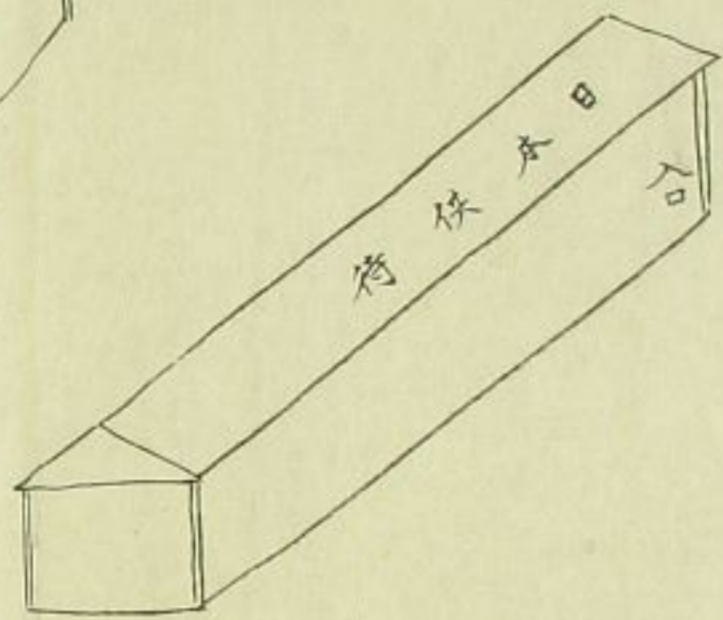
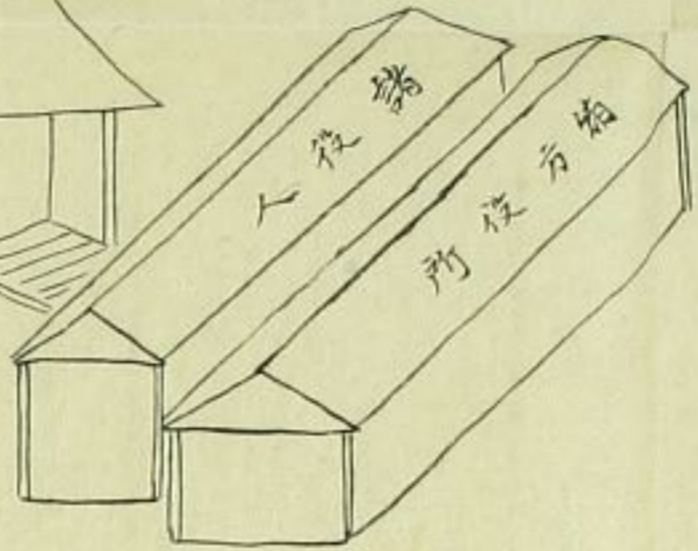
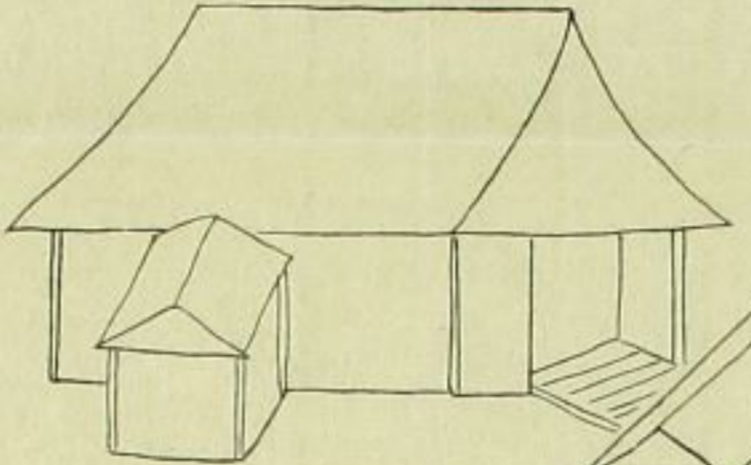
60  
65  
70  
75  
80  
85  
90

真田信濃守  
固人数

小笠原  
固人数

幕張

場接應



幕張

△ 役人  
△ べルリ

此中ノ角力取回儀ヲ持テ予曲持テ之ノ異人並見也

米百依異人江下之第 叙有鉄炮持テ立並ニ固之

是ヨリテカ人並見ノ御見立  
御見立  
御見立  
御見立

艘ハライテツバ

意接相決異人江米百依  
以下候第如圖之ニ行ニ固之

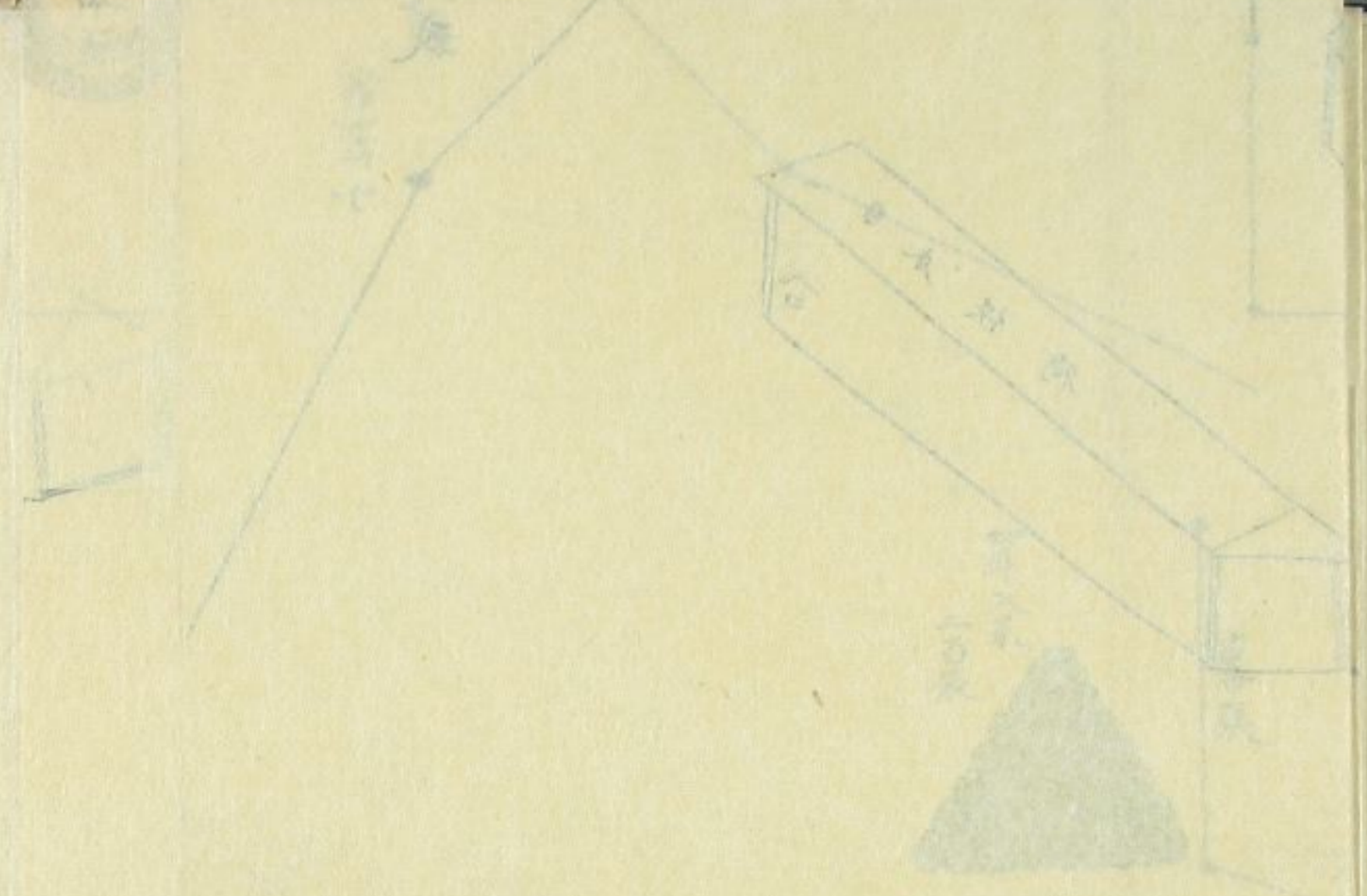






此圖係  
 某處之  
 界址  
 圖也

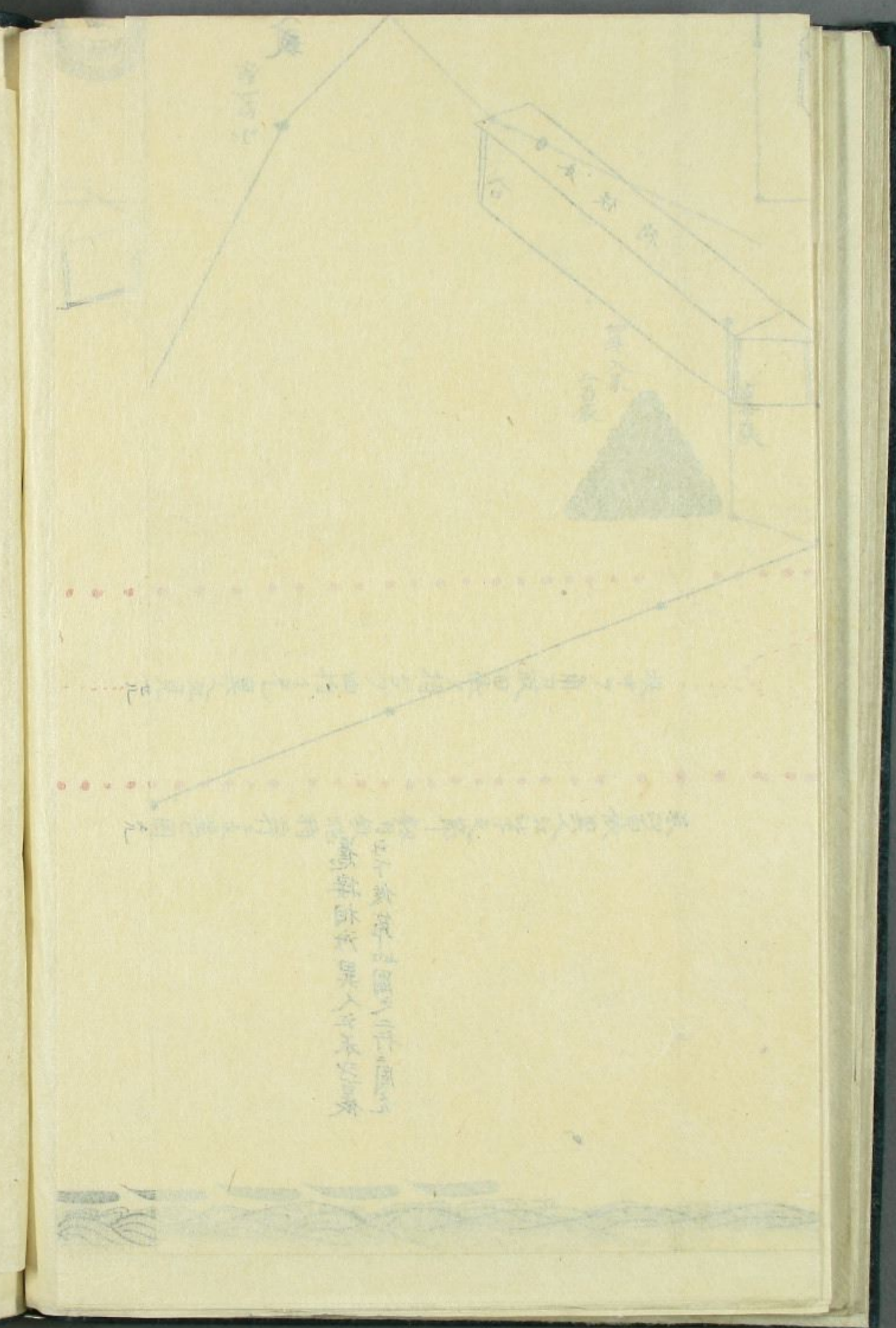
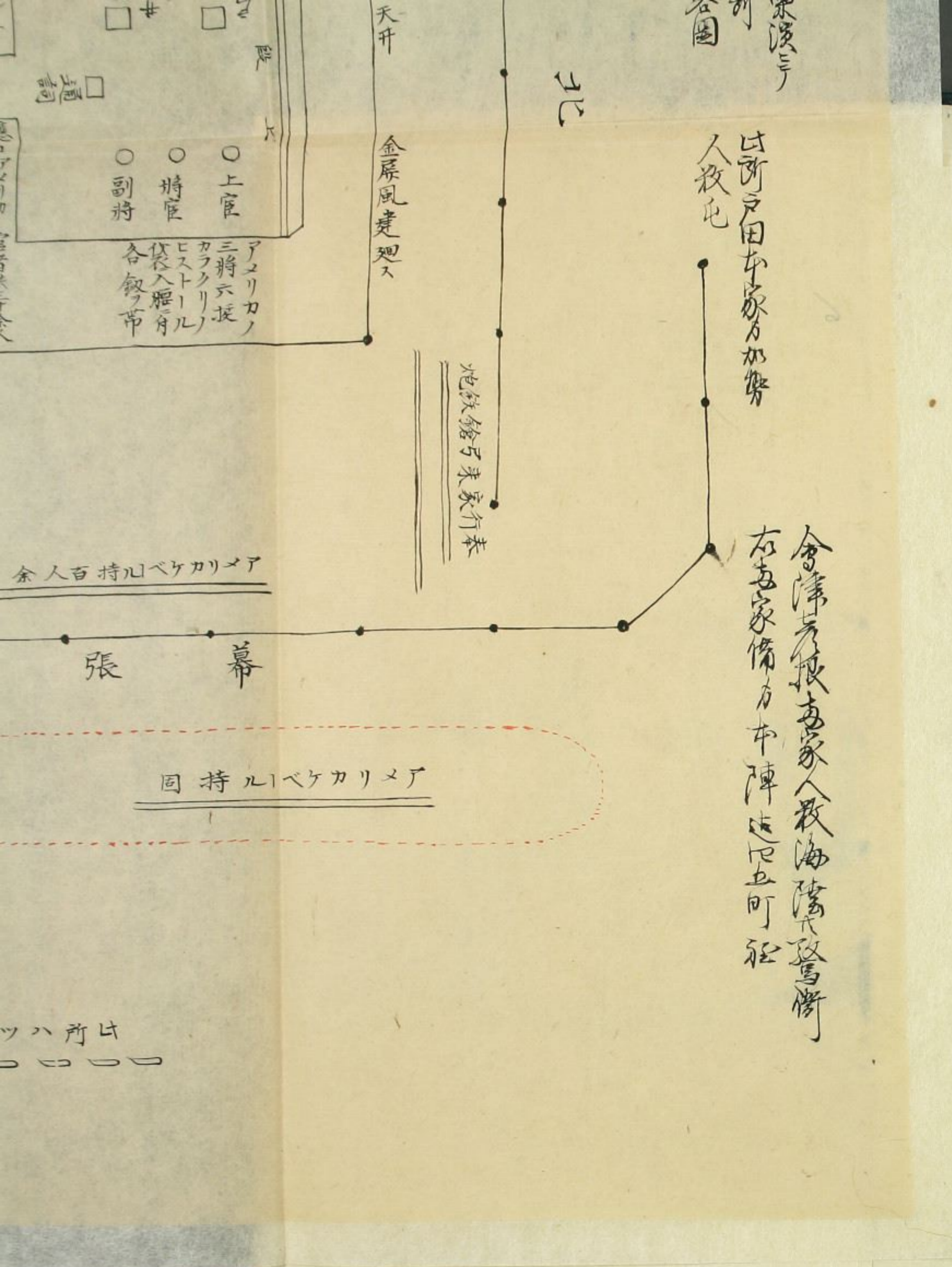
西  
 東  
 南  
 北



此圖係  
 某處之  
 界址  
 圖也

西  
 東  
 南  
 北





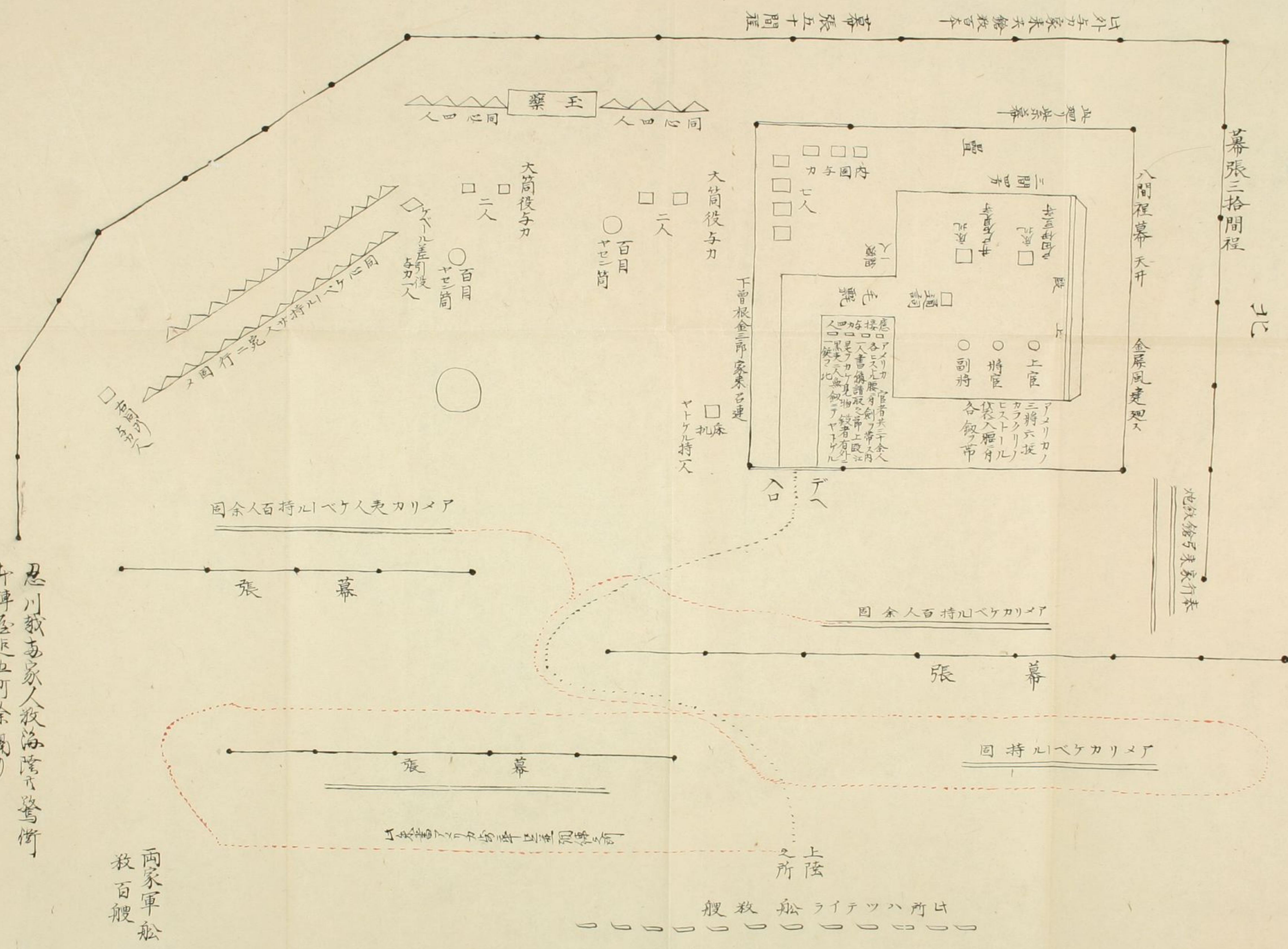
明治三十五年六月八日相刺(東洋)アメリカ人(書院)内(海防)所(畧)圖

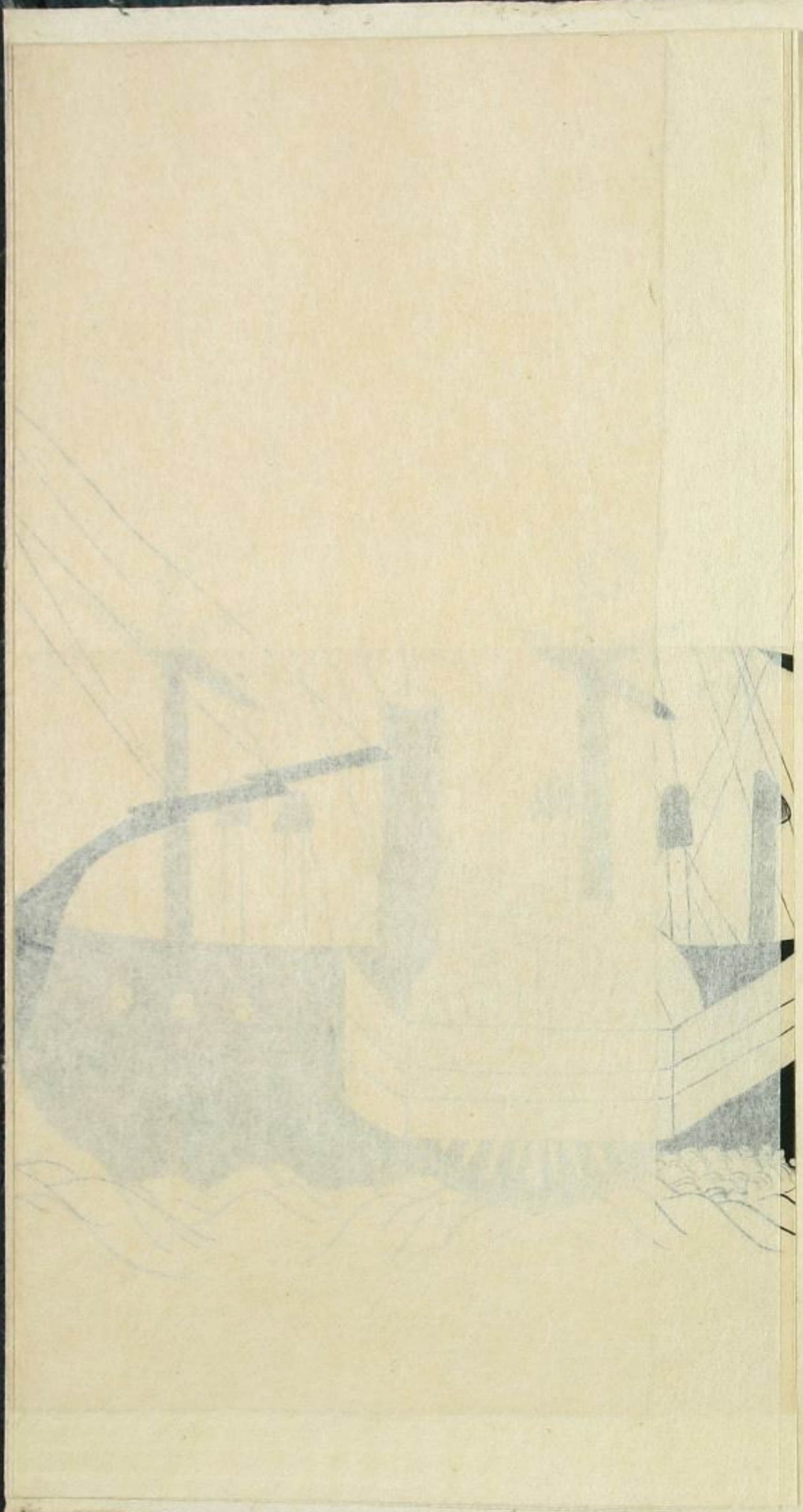
此所(戸田)本(家)方(が)勢(人)救(死)

今(洋)方(報)本(家)人(救)海(防)所(警)衛(右)本(家)備(力)本(陣)迄(可)至(可)至

忍(川)我(本)家(人)救(海)防(所)警(衛)本(陣)迄(可)至(可)至

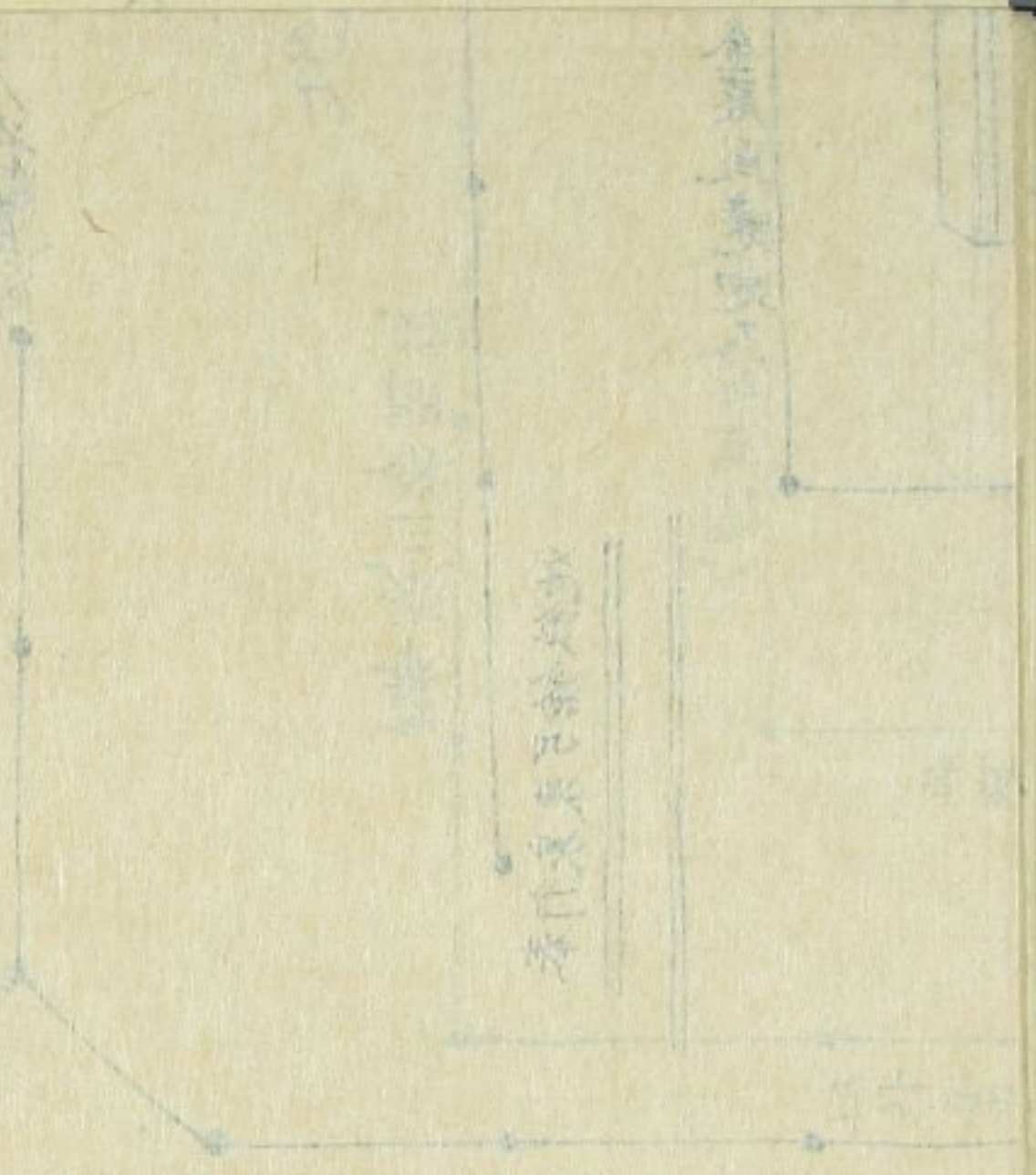
兩(家)軍(船)救(百)艘





2

本行東原百餘餘里  
 長江  
 入海



本行東原百餘餘里

長江  
 入海

北  
アメリカ

# 蒸氣船略圖

大り七十五間

汎載十三

石火矢十八

車差渡六間

凡  
完

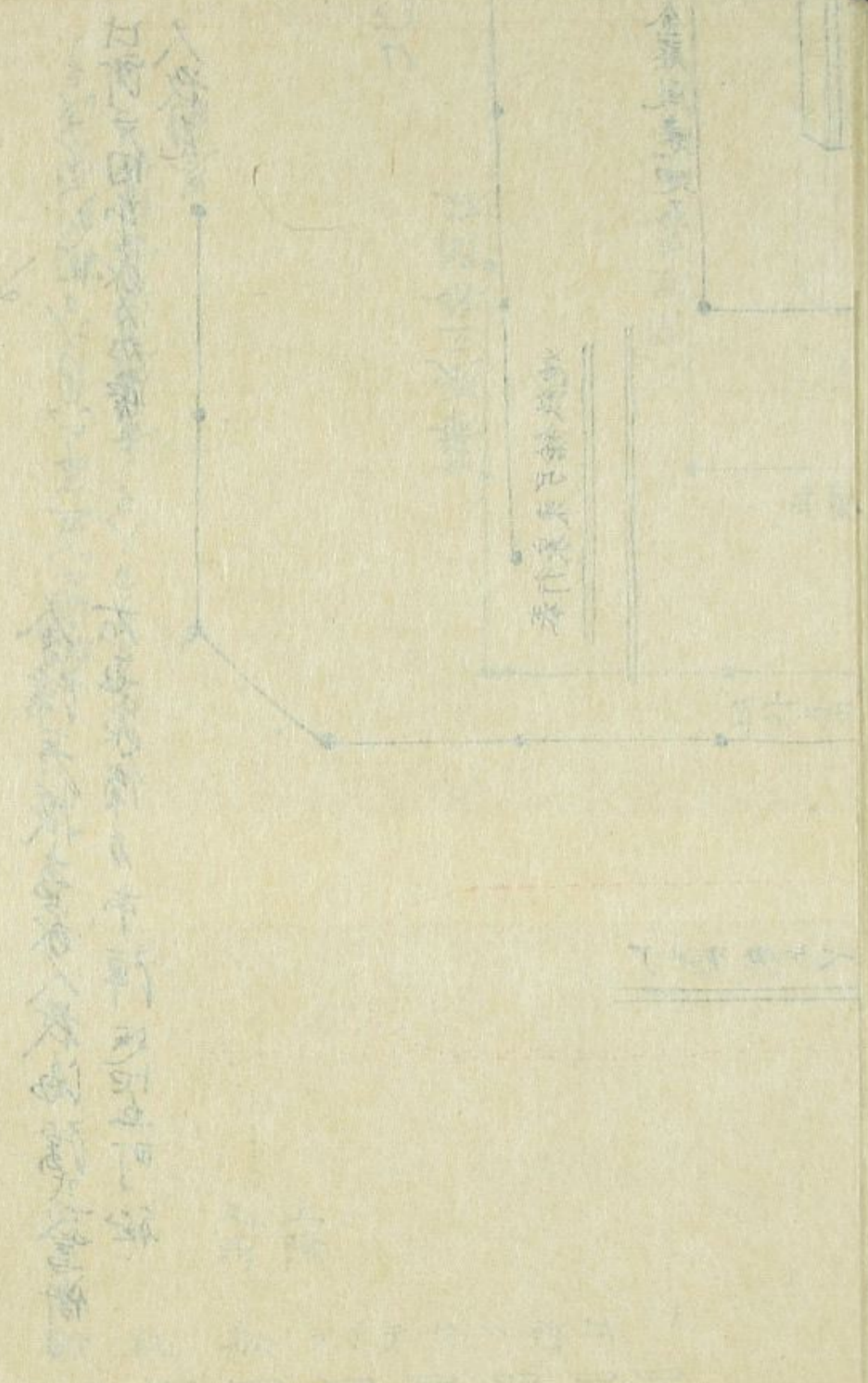
火筒



是ヨリ火ヲ出ス



是カノ袋也ヨリ凡ク合ム



北アメリカ

# 蒸氣船略圖

大り七十五間

汎載十三

石火矢 十八

車差渡六間



風元

是六カノ袋也 是ヨリ風ヲ合ム

火筒

是ヨリ火ヲツツス



車蓋箱三六回

五火夫 十八

厨神 十三

大下十五間

車蓋箱細圖



火筒



舟

